	令和 4 年度八尾市産業振興会議 第 1 回本体会議 議事録			
日時	令和4年7月25日(月)15時00分~17時00分			
場所	八尾商工会議所会館 3階 セミナールーム・多目的室			
出席者	<ul> <li>〈委員 12名〉</li> <li>山縣座長、滝本副座長、乾委員、今岡委員、大平委員、樫本委員、梶本委員、高垣委員、西村委員、服部委員、美馬委員、山田委員</li> <li>〈事務局 10名〉</li> <li>新堂部長、後藤課長、林田参事、田中参事、内藤課長補佐、中谷係長稲森係長、高尾、杉原、運営支援事業者 肥後氏</li> <li>〈オブザーバー 1名〉</li> <li>八尾商工会議所 川野所長</li> </ul>			

## - 事務局による司会で次第に沿って進行 -

## 1. 開 会

事務局より、岡田委員、佐原委員、佐藤委員、寺西委員、花村委員、三宅委員、吉田委員の欠席を報告。併せて、全委員 19 名のうち 12 名の委員の出席となっており、八尾市産業振興会議規則第3条に規定する過半数の委員の出席により、本日の会議が成立していることが報告。

## 2. 委嘱状交付

委員を代表して、乾委員に市長から委嘱状を交付。

## 3. 市長あいさつ

## 4. 座長選任、副座長指名

八尾市産業振興会議規則第2条に基づき、事務局から提案があった山縣委員を座長と して選任するとともに、座長の山縣委員より滝本委員を副座長に指名。両委員よりあいさ つ。

# 5. 議事

- -山縣座長による議事進行-
- (1) 八尾市産業振興会議について

事務局より資料1に沿って説明。

## (2) アイスブレイクと他己紹介

グラフィックファシリテーターの肥後氏より、自己紹介の方法について説明。 「名前・仕事や活動で何をしているか・参加した理由やこの会議に期待していること・私 と八尾の関係」をグループ内で自己紹介し、その後、他己紹介の形式で発表していく。

### 【ワーク1:他己紹介】

# ◆服部委員について(美馬委員)

民間企業を経験し、現在は八尾市の農業を観光化する活動をされている。八尾市の魅力 を伝えていきたい。農業という視点から面白い意見が聞けそうである。

## ◆西村委員について (服部委員)

小学校の校長先生をされており、小学生に八尾の良さ伝えたいという思いを持たれている。色んな人と出会え、その経験を伝えてあげることができると思い参加された。八尾市で生まれ育つ、貢献したいとのこと。

### ◆美馬委員について(西村委員)

本業は建築・リフォーム。八尾商工会議所青年部の30代目の会長を務められていた。 たくましい子供たちを育てたいという思いを持たれており、ジュニエコという職業体験、 キャリア教育を行われている。八尾市に恩返ししたい、盛り上げていきたい、八尾市の魅 力を伝えていきたいという思いを持たれている。

#### ◆山縣委員について(山田委員)

近畿大学の教授をされている。話が理論的で非常にわかりやすい。今まで、産業振興会議は、2期連続で座長を務められている方はいないので、その継続性にも期待している。

#### ◆山田委員について(滝本委員)

産業振興会議の委員を 3 期 6 年務められている。今回は、是非糠床モデルを体感・実践していきたいとのこと。現在、糠床モデルへのため込み方がわからないので、そのシステムやスキームを作っていきたい。

## ◆滝本委員について(山縣委員)

滝本委員は、大学の教授は、実際に「やってみる」立場にはいないと考え、実際に「やってみたい」との思いを持っていた。また、美馬委員がされている「ほめ達」の活動について、滝本委員自身も小中学生をもっと巻き込んでやってみたいと考えている。

#### ◆乾委員について(今岡委員)

八尾市で歯ブラシを製造されている。最近では、SDGs に関連した歯ブラシを開発された。八尾生まれ八尾育ち、さらに八尾で商売され、八尾に対して熱い思い持たれている。

#### ◆今岡委員について(高垣委員)

JR 久宝寺駅の近くで看板屋を経営され、創業 20 年を超えている。中小企業を盛り上げて、発展させたいと考え、何か伝えることが出来たらと考え参加している。

#### ◆高垣委員について(乾委員)

金融機関の企業支援部で務められている。業務担当エリアが八尾市であり、いろいろな企業とつながりを持たれている。また創業支援なども行われている。

#### ◆梶本委員について(大平委員)

今回で3期目を迎えられる。前回、2期目に「八尾糠床モデル」を提言し、これから面白くなっていきそうと感じた。また、それについて、自分で形になるまで関わりたいと意欲的である。

## ◆樫本委員について (梶本委員)

今回で 5 期目を迎えられる。今の時代は、コロナ禍ということもあり変革期であると感じている。様々な団体の活動を見ている中で、横のつながりが希薄だと感じている。 「糠床モデル」を使って、横のつながりを広げる活動をしたい。

#### ◆大平委員について(樫本委員)

近畿経済産業局の地域開発室長を務められている。地方創生に関わる業務に携わっているので、この産業振興会議での様々な意見が参考になる。この産業振興会議は、色んな立場の人がざっくばらんに話をできる所が素晴らしい。これを他の地域にも広げたいと意欲を持っている。

## 【八尾糠床モデルについての説明:山縣座長】

- ・発酵という言葉は昔からある。発酵は、ある程度どのようになるかは想像できるが、完全に計画することはできないのがポイントである。
- ・発酵は、それぞれ良いところで化学反応し生み出している。
- ・色々な人たちの問題を解決することもあれば、その人たちの良いところを生かすこと もある。それぞれの違いを生かして、どうやったら良い方向に向いていくのかというのが ベースの考え方である。
- ・アイデアや問題、参加する人たちが糠床に集まって、それをかき混ぜる人がいる。誰が

しなければいけないということではなく、やりたい人がやれば良い。

- ・「かき混ざる」という日本語は存在しない。能動的に巻き込まれていくのが糠床モデル である。
- ・コミュニティに入りたいけど、なかなか入れない人が入れるようするイメージ。
- ・今期は、農家の方や学校の先生が委員にいらっしゃる。今までの枠組みにとらわれることなく、今回は今までの境界を越えた化学反応のアイデアを出していきたい。

## 【ワーク2:他己紹介】

山縣座長の説明を聞いて、「やりたいこと」「困りごと・わからないこと」について各グループで話をし、全体共有をする。

#### ◆グループ1(山田委員・山縣委員・滝本委員)

- ・糠床モデルには、縁側や銭湯のようなカテゴリーの違う人が出会って話ができる空間が必要である。
- ・「みせるばやお」は、そのような空間を提供できる場であり、そこで糠床モデルの実験 や実践をすることが出来れば、さらに発展すると考える。
- ・単発で終わらない仕組みづくりが大事である。
- ・番頭や書き取り役を人類学で「エスノグラファー」と言い、そういった考え方も取り入れながら、いろいろな実験に取り組んでいく。

#### ◆グループ2(大平委員・梶本委員・樫本委員)

- ・今回、校長先生が委員にいらっしゃるのは、横のつながりを持てるという意味で心強 い。
- ・行政が抱える課題とソーシャルビジネスをされている事業者がつながる仕組みづくり をしても面白い。これは課題を糠床に入れるイメージである。
- ・少しゆとりが出た方、例えば60歳以上の方などを巻き込んで、その方からアドバイスをもらうような仕組みづくりを作っても面白い。おせっかいする人を集める場を作る。

## ◆グループ3(服部委員・西村委員・美馬委員)

- ・次世代を担う子供たちがチャレンジすることを応援する町にしていきたい。子供たち を学校だけに任せるのではなく、企業や地域で育てていく観点が必要である。
- ・八尾市はものづくり企業が多いのが特色である。ものづくり企業へ子どもたちを連れていく工場見学の実施、街コンのようなイベントの実施など特色のあるイベントが考えられる。これは農地でも可能である。町全体でこのようなイベントが出来たら面白い。
- ・委員も含めて糠床を体験したことがない方が多いと思う。実際にやってみると、今後の 議論にも役に立つ気がするので、お勧めする。

◆グループ4	(今岡委員	・高垣委員	・乾委員)
▼ンルーン ヰ	(フツ女具	· 同型女员	:"女女只!

- ・みせるばやおを活用して、様々なコミュニティの連携を進めていく。
- ・2025年の万博に向けて、八尾空港を活用したイベント等が出来たら良い。
- ・市役所の中にも糠床モデルを導入してはどうか。
- ・各地域のコミュニティが横のつながりが無いので、これをつないでいかなければならない。
- (3) その他連絡事項について

次回の産業振興会議は令和4年9月16日(金)の15時から開催予定。

- 6. 魅力創造部長あいさつ
- 7. 閉会

以上

## <参考:当日のグラフィックレコーディング>













